

なお釈文について内田九州男氏を始め、渡辺武・中村博司・安竹貴彦・菅良樹氏に御教示いただいた。

9 関係文献

大阪府教育委員会『大坂城跡発掘調査概要Ⅰ』（一九八九年）

（佐久間貴士）

木簡研究 第六号

巻頭言——記紀批判と木簡——

一九八三年出土の木簡

直木孝次郎

概要 平城宮・京跡 平城京二条大路・左京二条二坊十二坪 平

城京左京八条三坊十一坪 東大寺仏舎屋下層遺構 藤原宮跡 長

岡宮・京跡 平安京右京八条二坊 定山遺跡 水走遺跡 津堂遺

跡 高宮遺跡 池上・曾根遺跡 万町北遺跡 山垣遺跡 福成寺

遺跡 沢田宮谷遺跡 長尾沖田遺跡 小川城遺跡 道場田遺跡

宮久保遺跡 鹿島湖岸北部条里遺跡 東光寺遺跡 北大堂遺跡

篠脇遺跡 北稻付遺跡 鯉沼東Ⅱ遺跡 下野国府跡 多賀城跡

一乗谷朝倉氏遺跡 近岡遺跡 曾根遺跡 前田遺跡 美作国府跡

草戸千軒遺跡 尾道遺跡 芳原城跡 大宰府跡

一九七七年以前出土の木簡（六）

平城宮跡（第三次）

平安時代の日記にみえる木簡

日本古代の人口について

彙報

『木簡研究』一～五号総目次

頒価 三五〇〇円 千四〇〇円

山田 英雄
鎌田 元一

大阪・東郷遺跡

1 所在地 大阪府八尾市光町一丁目

2 調査期間 一九八八年（昭63）七月～八月

3 発掘機関 勉八尾市文化財調査研究会

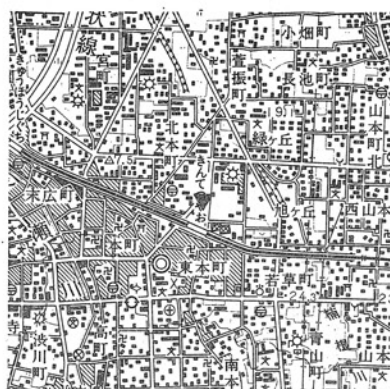
4 調査担当者 西村公助

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 弥生時代中期～鎌倉時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

東郷遺跡は、河内平野の中央部に位置し、長瀬川と玉串川とに挟まれた沖積地上に立地している。今回の調査は、ビル建設にともな



（大阪東南部）

い、勉八尾市文化財調査研究会が東郷遺跡第二八次調査として実施した。調査の結果、古墳時代前期の溝一条、平安時代後期の井戸一基・土壇一基・小穴四個を検出した。

墨書は、平安時代後期の井戸の側板に転用された曲

物容器に記されていた。この井戸は、出土した瓦器碗の形式から一

世紀末から一二世紀前葉と考えられる。

8 木簡の釈文・内容

(1) [永カ] [十カ] 二月廿三日福 [殿カ] [] [] [] [] 061

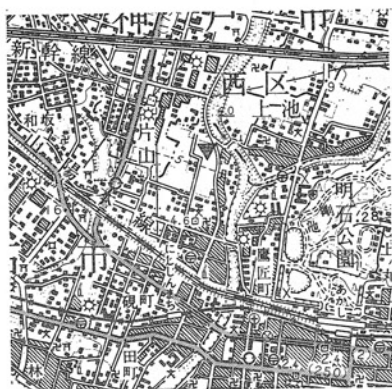
曲物の径は三七・〇cm、高さ二五・〇cmである。一二世紀末～一二世紀前葉で「永」ではじまる年号には「永保」(一〇八一～一〇八四)、「永長」(一〇九六～一〇九七)、「永久」(一一一三～一一一八)の三つがあり、そのいずれかにあたる。

(西村公助)

兵庫・吉田南遺跡

- 1 所在地 兵庫県神戸市西区玉津町・明石市北王子町
- 2 調査期間 一九八七年(昭62)二月～一九八八年二月
- 3 発掘機関 兵庫県教育委員会
- 4 調査担当者 岡崎正雄・村上賢治・平田博幸・高瀬一嘉
- 5 遺跡の種類 郡衙跡・集落跡
- 6 遺跡の年代 三～一三世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

吉田南遺跡は、明石川下流右岸の完新世段丘及び旧河道に位置する。一九七五～八〇年にかけて、神戸市教育委員会、吉田・片山遺



(明石)

跡発掘調査団が、神戸市玉津環境センター建設に先立ち数次にわたって発掘調査を実施しており、弥生時代から鎌倉時代にかけての複合遺跡で、奈良時代後期から平安時代前期にかけては明石郡衙(ないしは明石駅家)に比定される建物群や井戸